

## 最新スクリプト講座

### 第1回

# PHPの基本を マスターしよう

HTMLはある程度理解したので、さらに次のステップに進みたいという人におすすめなのが、PHPというスクリプト言語だ。PHPを使えば数行のスクリプトを書くだけでも、複雑なCGIに匹敵する機能が実現できる。今月から始まるこの連載でPHPをマスターして、ワンランク上のウェブ作成にチャレンジしよう。 宮本和明

## PHPでウェブ作成が変わる!

PHPを説明するには、実際のPHPのスクリプトを紹介するのがわかりやすいだろう。まずは、下の❶のスクリプトを見てみよう。ほとんど普通のHTMLファイルと変わらないが、途中にある

```
<? print( date("H:i")); ?>
```

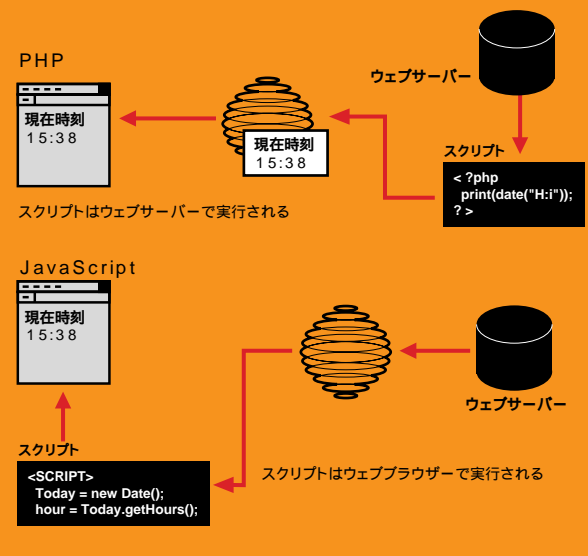
という部分がPHPのスクリプトで、このスクリプトは現在の時刻を表示するものだ。このように、PHPは通常のHTMLに簡単なスクリプトを記述するだけで、こうした機能が追加できる便利な言語である。

これと同じものをCGI(Perl)で記述したのが❷のスクリプトだが、PHPに比べるとかなり複雑になる。特に、先頭の3行はCGIを使う上での「おまじない」のようなもので、この部分がなければCGIとしては動作しない。Perlを使ったCGIでは、こうした約束事として覚えなければならないことが多いのが難点

だ。PHPはHTMLの中に直接記述でき、しかもCGIのような「おまじない」も必要のない、初心者が覚えるにも簡単な言語だ。

また、同じようにHTMLの中に記述するスクリプト言語としてはJavaScriptがあるが、JavaScriptはブラウザ側で実行されるスクリプトであるため、サーバー側のデータと連携するようなスクリプトは記述できない。これに対してPHPはサーバー側で実行されるスクリプトなので、CGIでできることはほぼ実現できるというメリットがある。

### PHPとJavaScriptの違い



```
<HTML>
<BODY>
現在の時刻は<? print( date("H:i")); ?>です。
</BODY>
</HTML>
```

❶ PHPの例

```
#!/usr/bin/perl
use CGI qw/:standard/;
print header("text/html");
($sec,$min,$hour,$mday,$mon,$year,$yday,$isdst) =
localtime();
print "<HTML>\n";
print "<BODY>\n";
print "現在の時刻は\".$hour.\".$min.\"です。 \n";
print "</BODY>\n";
print "</HTML>\n";
```

❷ CGIの例

## 現在の時刻、ファイル更新時刻を表示する

それでは、前ページで紹介したスクリプトをもう少し発展させた例を見てみよう。①のnow.phpは、時刻だけでなく年月日や曜日表示するスクリプトだ。このほかにも、date関数の中では表1のような文字列が指定できる。

①のスクリプトにさらに手を加えて、さらに曜日を日本語表記するようにしたのが、②のnow2.phpだ。このスクリプトの2行目では、array関数を使って、\$weekday\_jという配列に曜日の日本語表記を設定している。具体的には、以下のような値が配列に代入されることになる。

```
$weekday_j[0] = "日"
$weekday_j[1] = "月"
↓
$weekday_j[6] = "土"
```

あとは、date関数で「w」を指定すれば曜日を数値(0~6)として取り出せるので、これを配列のインデックスとして利用することで、曜日を日本語で表示している。

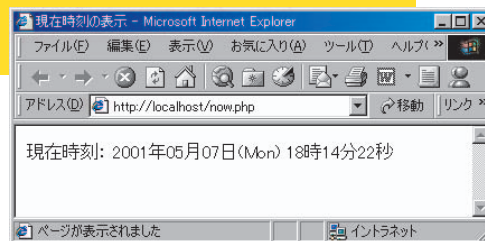
③のnow3.phpは、ウェブページの最終更新日を表示するスクリプトである。getlastmod()というのは、現在のファイルが更新された日時を取得する関数である。date関数には2つ目の引数でunixtimeを指定することができるので、その日時をY/m/d H:iというフォーマットで出力している。

表1 date関数で指定できる文字列の例

文字	値
Y	年(2000~)
y	年(00~)
m	月(01~12)
n	月(1~12)
d	日(01~31)
j	日(1~31)
D	曜日(Sun~Sat)
w	曜日(0~6)
H	時(00~23)
G	時(0~23)
i	分(00~59)
s	秒(00~59)

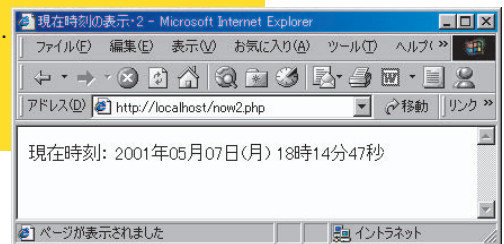
```
<HTML>
<HEAD><TITLE> 現在の時刻の表示 </TITLE></HEAD>
<BODY>
現在の時刻 :
<?
echo date("Y年m月d日(D) H時i分s秒");
?>
</BODY>
</HTML>
```

① now.php  
現在の時刻の表示



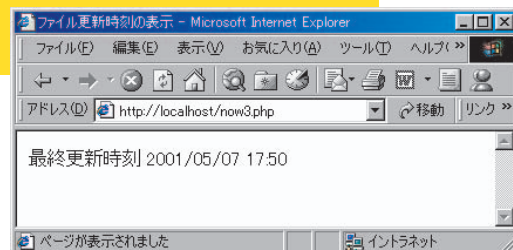
```
<?
$weekday_j = array("日", "月", "火", "水", "木", "金", "土");
?>
<HTML>
<BODY>
現在の時刻 :
<?
echo Date("Y年m月d日");
$weekday_no = date("w");
echo "(" . $weekday_j[$weekday_no] .
echo date("H時i分s秒");
?>
</BODY>
</HTML>
```

② now2.php  
現在の時刻の表示(日本語の曜日)



```
<HTML>
<HEAD><TITLE> ファイル更新時刻の表示 </TITLE></HEAD>
<BODY>
最終更新時刻
<?
echo date("Y/m/d H:i", getlastmod());
?>
</BODY>
</HTML>
```

③ now3.php  
ファイル更新時刻の表示



## 環境変数で表示されるページを変えよう

次は、ウェブページを見ている人の環境によって表示される内容が変わるページを作ってみよう。

①のenv.phpは、ウェブページを見ている人のブラウザ名とIPアドレスを表示するスクリプトだ。PHPではこうしたユーザーの状態を表す環境変数があらかじめ用意されており、ここで用いた「\$HTTP\_USER\_AGENT」や「\$REMOTE\_ADDR」のほかにも、「\$SERVER\_NAME」（スクリプトが実行されているサーバーの名前）や「\$PHP\_SELF」（現在実行されているスクリプトのファイル名）などが利用できる。

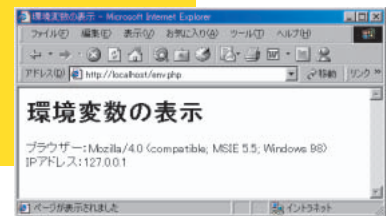
②のbrowser.phpでは、if文で条件分岐することによって、ブラウザごとに表示を変えるようになっている。注目すべき箇所としては、<? ~ ?>のPHPスクリプトが複数の箇所に分断されている点である。PHPではこのように記述しても、ファイル全体でスクリプトとして動作するようにできている。ほかの言語のプログラミングに慣れた人は少し戸惑うかもしれないが、このような使い方ができるのはPHPの大きな特徴の1つである。

if文の中では、指定した文字列が含まれているかを判定するeregという関数を利用している。ここでは、\$HTTP\_USER\_AGENTに「MSIE」や「Netscape」、「DoCoMo」といった文字列が含まれているかどうかを判別して、それぞれのページを表示している。

③のaccess.phpでは、サーバーマシン自身からアクセスした場合にだけページを表示し、他のマシンからアクセスされた時にはページを表示しないような仕組みを作っている。ウェブページはネットワークにつながっていればどこからでも参照される可能性があるため、管理用のスクリプトを記述する場合には、こうした処理によりセキュリティに配慮しておくことが必要だ。ここでは「自分自身のIPアドレス」は「127.0.0.1」であることを利用して、これをif文で判定して表示される内容を変えている。

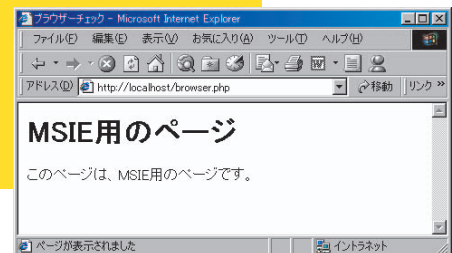
```
<HTML>
<BODY>
<H2>環境変数の表示</H2>
ブラウザ：<? echo $HTTP_USER_AGENT; ?>
<BR>
IPアドレス：<? echo $REMOTE_ADDR; ?>
</BODY>
</HTML>
```

① env.php  
環境変数を表示する



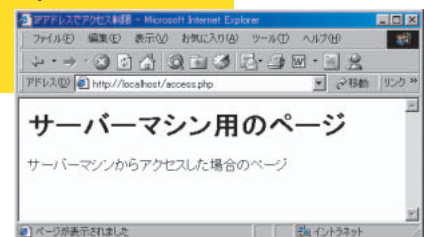
```
<HTML>
<BODY>
<? if(ereg("MSIE", $HTTP_USER_AGENT)){ ?>
<H2>MSIE用のページ</H2>
このページはMSIE用のページです。
<? }elseif(ereg("Netscape", $HTTP_USER_AGENT)){ ?>
<H2>Netscape用のページ</H2>
このページはNetscape用のページです。
<? }elseif(ereg("DoCoMo", $HTTP_USER_AGENT)){ ?>
<H2>iモード用のページ</H2>
このページはiモード用のページです。
<? }else{ ?>
<H2>その他のブラウザ用のページ</H2>
このページはその他のブラウザ用のページです。
<? } ?>
</BODY>
</HTML>
```

② browser.php  
\$HTTP\_USER\_AGENTによる分岐



```
<HTML>
<BODY>
<? if($REMOTE_ADDR == "127.0.0.1"){ ?>
<H2>サーバーマシン用のページ</H2>
サーバーマシンからアクセスした場合のページ
<? }else{ ?>
このページはサーバーマシンからしかアクセスできません。
<? } ?>
</BODY>
</HTML>
```

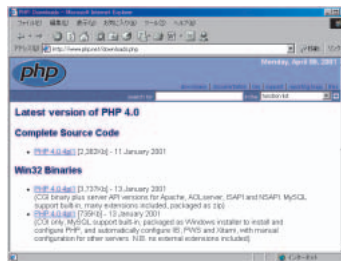
③ access.php  
\$REMOTE\_ADDRによる分岐



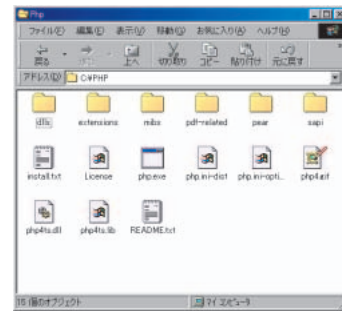
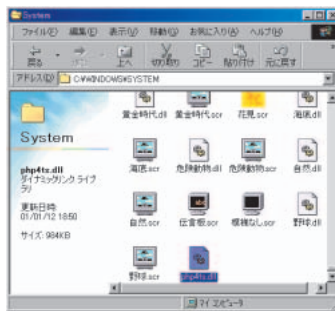
# 自分のパソコンに PHP をインストール しよう

## PHP のインストール

PHP を実際に使ってみるには、自分のパソコンにPHP が動く環境を作ってしまうのがもっとも簡単だ。今回は、PHP をウィンドウズマシンにインストールする方法を紹介しよう。



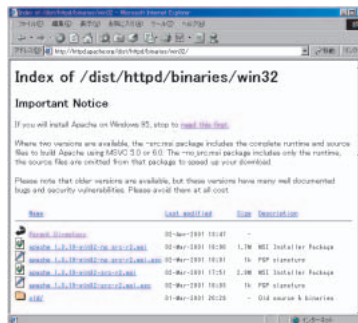
① PHP のダウンロード用のページ [www.php.net/downloads.php](http://www.php.net/downloads.php) で、ウィンドウズ版の PHP をダウンロードする。



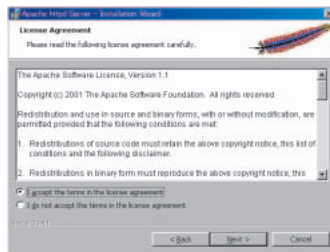
② ダウンロードしたファイルを解凍して、「php4ts.dll」というファイルを「C:\Windows\System」フォルダーに移動する。残りのファイルは、「C:\PHP」というフォルダーを作り、そこにすべて移動する。

## Apache のインストール

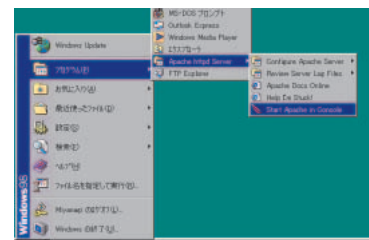
次に、ウェブサーバー用のプログラム「Apache」をインストールしよう。設定が終われば、自分のパソコンでPHP が動かせるようになる。



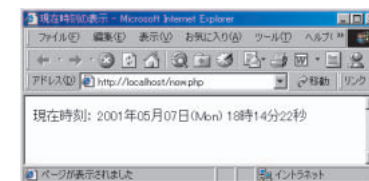
① Apache のダウンロード用のページ [httpd.apache.org/dist/httpd/binaries/win32/](http://httpd.apache.org/dist/httpd/binaries/win32/) から、「Apache-1.3.19-win32-no-src-r2.msi」をダウンロードする。「1.3.19」はバージョン番号なので、変わる可能性がある。



② ダウンロードしたファイルをダブルクリックすれば、Apache のインストールが始まる。インストールはウィザード形式なので、指示に従っていけば問題ない。



③ Apache を動かすには、スタートメニューから「プログラム」→「Apache httpd Server」→「Start Apache in Console」を選ぶ。



④ 以上で準備は完了。PHP ファイルを「C:\Program Files\Apache Group\Apache\%htdocs」フォルダーに入れて、ウェブブラウザで「http://localhost/~.php」にアクセスすれば、PHP が動いているはずだ。

```
LoadModule php4_module c:/php/sapi/php4apache.dll
AddType application/x-httpd-php .php
```

⑤ 「C:\Program Files\Apache Group\Apache\conf」フォルダーにある「httpd.conf」をテキストエディターで開き、左記の2行を最終行に追加する。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社**インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)